

中国 **你好!**

北京通信 Vol.3



福井商工会議所 主事
(中国日本商会 出向)
藤原 卓也

日系企業の新卒採用を支援

中国日本商會が主催する合同面接会が北京市内の大学にて4月11日に開催されました。

毎年1〜2回開催する本面接会は、日系企業の中国における優秀な人材確保の支援を目的として実施しています。日系企業の中国における現地職員の採用方法は、ウェブによる応募や各社単独で開催する説明会などが挙げられますが、企業と学生が一堂に会して行われる合同面接会は他に無く、企業・学生双方にとって効率的に採用・就職活動ができる貴重な機会となっています。今回は日系企業16社が参加し、今年卒業予定の日本語学科の大学生・大学院生ら約700人が参加。前回(2014年11月開催)と比較して

参加者が倍増し、当日は履歴書を持ってきた学生が流暢な日本語を話しながら企業の採用担当者とは面接する姿が見受けられました。

日中関係改善への期待が背景

参加者増大の背景には、日中関係が少しずつ改善に向かう中、両国の経済的な結びつきが今後も強まることへの期待や、最近の日本旅行ブー



各企業ブースには途切れなく学生が集まりました

ムにより学生やその親の日本への抵抗感が少なくなったことが挙げられます。また、春節や花見の時期に日本を訪れる中国人が近年急増していることに伴い、旅行業界や航空業界において日本語を話せる中国人の活躍の場が益々広がることへの期待も背景として挙げられます。

拡大傾向にある中国人の所得

3月に開催された第12期全国人民代表大会における政府活動報告の中で、2014年度の都市部新規就業者数が前年を上回る1、322万人となり、今年度においても1、000万人以上の新規就業者数を目標とすると表明されています。その一方で、北京市における最低賃金が昨年度比1割程度高まり、日系企業にとっては人件費の高騰による固定費の増大が懸念されます。日本の対中投資は2012年をピークに減少傾向が続き、2014年は前年比38.8%減の43億ドルとなり2年連続で減少しています。この要因として、中国における投資環境の変化を受けて、日系企業の中



熱心に経歴や長所を伝える学生たち

でも特に輸出型企業にとって中国の優位性が低下していることが挙げられます。他方、所得が高まる中国人消費者をターゲットとした内販型企業にとっては中国を有望な市場と捉え、中国市場の開拓を強化する動きが継続するとみられます。

福井の企業の中でも既に中国への出店やインターネットを通じた中国への製品・商品の販売が見受けられ、中国市場展開には大きな魅力がありますが、国が異なることをよく理解した上での販売対応が必要です。

中国日本商會へのお問い合わせは・・・
福井商工会議所 会員サービス課
TEL 0776(33)8254